

平成 28 年度
春木駅周辺地区（4 校区）の公共施設について考えるワークショップ
～地域の拠点となる施設の機能と配置に関するケーススタディ～

実施概要

1. ワークショップの概要
2. 対象圏域
3. 全 4 回の内容
4. まとめ

1. ワークショップの概要

■ 開催日時と場所

第1回：平成29年1月12日(木) 第2回：1月31日(火) 第3回：2月7日(火) 第4回：2月21日(火)

※ いずれも19時から21時、春木地区公民館にて開催

■ 参加者

春木4校区の市民(校区長等)：14名 公共施設マネジメント課職員：5名

大阪市立大学大学院非常勤講師 江口雅祥 氏 (ファシリテーター)

■ 目的

今回のワークショップは、平成28年3月に策定の『岸和田市公共施設最適化計画』を推進するため、市民とともに議論しながら、地域にとってふさわしい施設配置について考えようとしたものです。

開催にあたっては、以下の点を主な目的としました。

① 公共施設最適化の取組みに関する認識を共有すること

ワークショップのシミュレーションを通し、市が進めている取組みの内容を、市民自身がケーススタディで案を作成することで体感し、市と市民又は市民同士で取組みに伴う課題等を共有する。

② 地域に受け入れられる案を作成する機会をもつこと

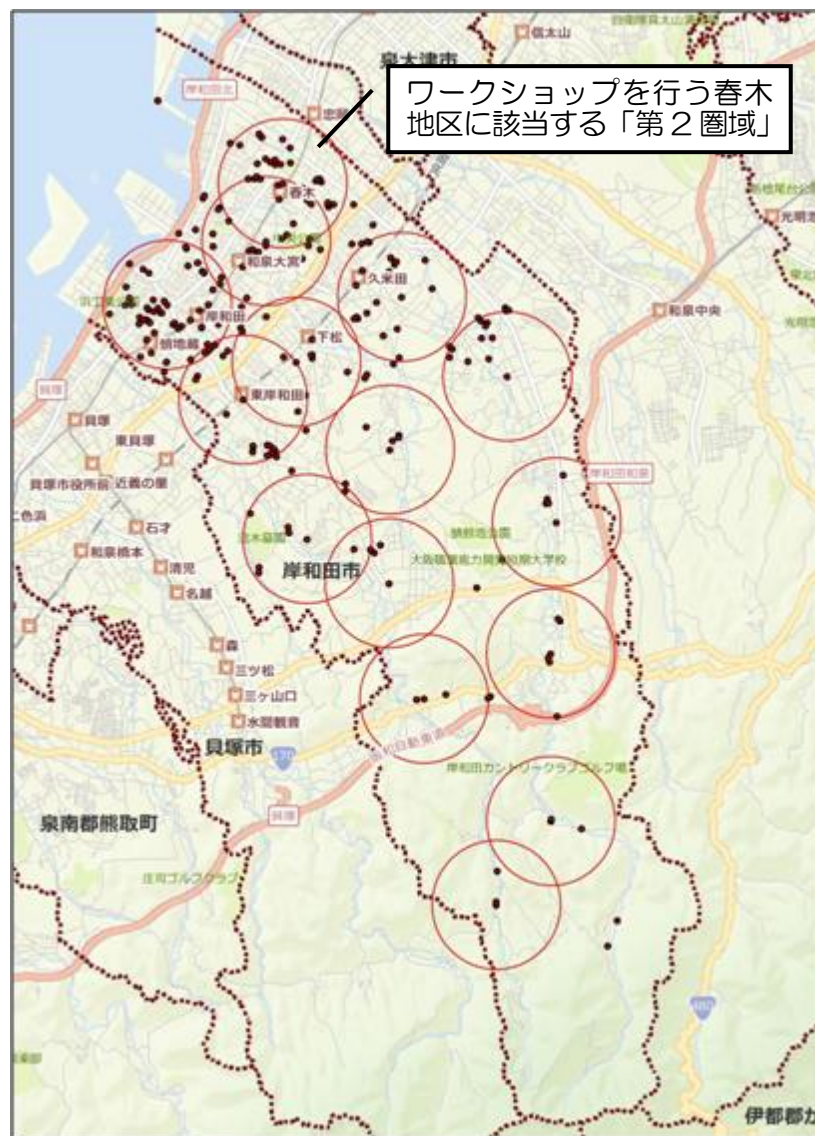
ワークショップに参加の市民自身が、地域住民に対して最終案を出した時、地域住民からどんな意見が出るだろうか、どうしたら魅力を伝えられるだろうか等を意識してもらう。

③ 市民目線の視点を市が把握すること

上記②のような、市民目線で検討する際の問題点や要望を聴き、市が取り組む際の気を付けるべき点を把握する。それにより、今後、実際の施設再配置を検討する際には、今回のワークショップを通して学んだ市民目線でのポイントを押さえた、より実現性の高いものとすることができる。

公共施設の適正配置は市だけで検討するのではなく、地域住民を交えて議論することが必要です。公共施設の再配置と言うと、施設の存廃で住民側と行政側でそれぞれの目標が一見対立するように思えますが、機能とハコ(施設)を分けて再構築することで、お互いの本来の目的を達成できる策が見えてくるのではないかと考えました。そのような利害調整のポイント等を把握することが重要です。

2. 対象圏域



『岸和田市公共施設最適化計画』210 頁

■ 対象圏域の選定

計画では地域コミュニティ活動の拠点となる施設を配置するため、15 の圏域（『岸和田市公共施設最適化計画』209 頁）を設定しています。今回対象としたのは春木地域（第2圏域）ですが、この地域では基盤整備を中心とした春木駅周辺まちづくりの検討が進められており、まちづくり全体ビジョンの中で公共施設の適正配置について考えることが効果的です。

また、この圏域について計画では、「公民館等の機能を整理し、圏域の拠点となる施設に機能集約します。特にこの圏域では5つの公民館が配置されており、人口密度を鑑みた再配置検討が必要」だと提案されています。

以上のことから、15 圏域での検討に向け、まずは当該地域でワークショップを開催することとしました。

■ 地域の拠点施設について

地域コミュニティ活動の拠点施設については、これまでも地域の活動場所として活発に利用され親しまれている公民館を中心に再配置（『岸和田市公共施設最適化計画』209 頁）を想定しています。

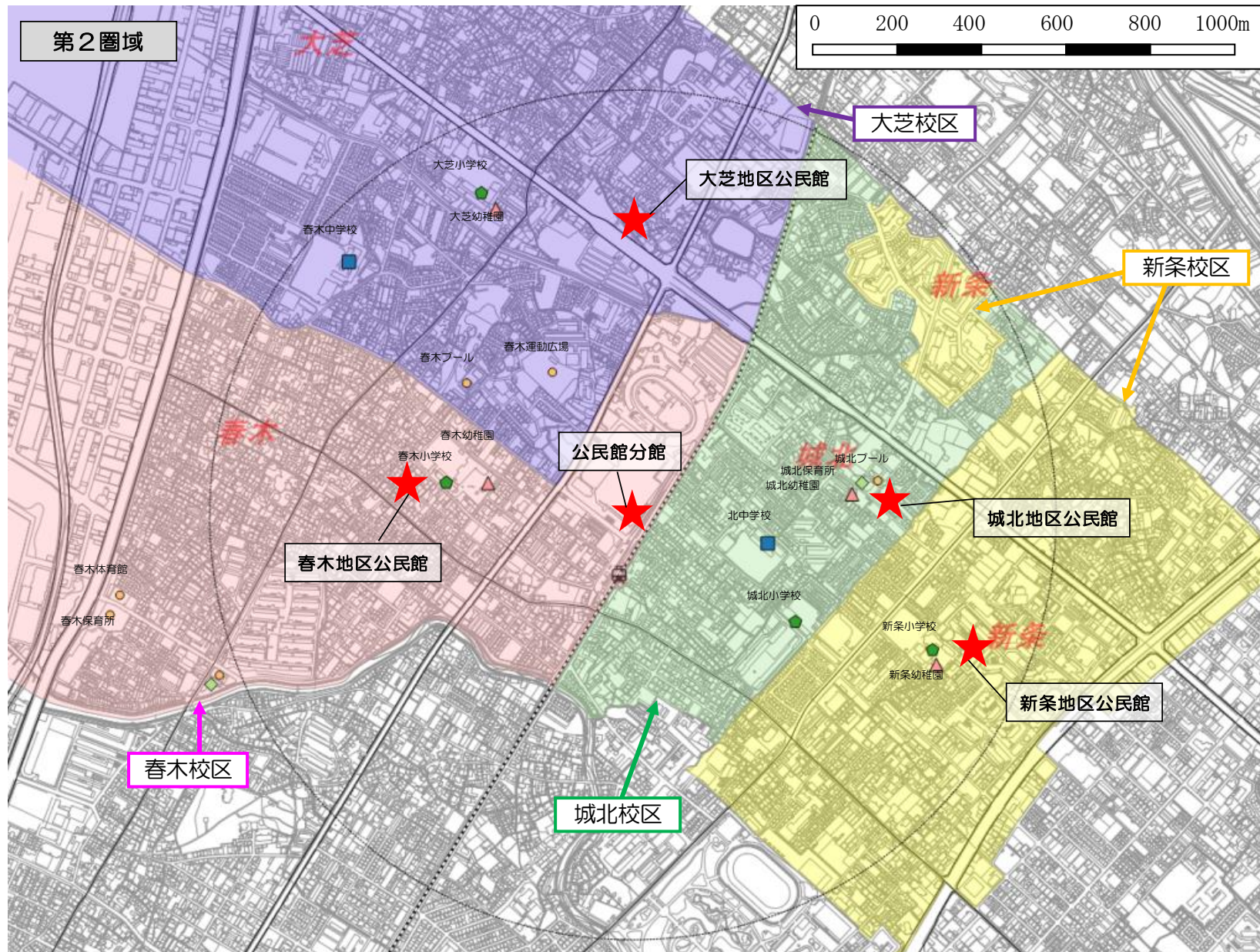
→ 計画に示す「15 圏域」の考え方について

15 圏域の設定による、地域コミュニティ活動の拠点施設の配置検討について、その考え方を参加者に問いました。

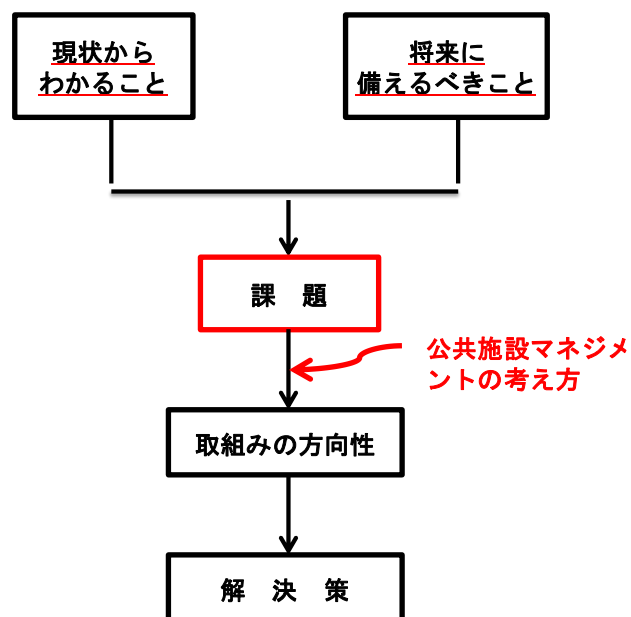
（主な意見）

- ・小学校区だと範囲が小さく中学校区だと大きいので、一定の理解はできる。
- ・コミュニティの活動を考えるなら、町会館をもっと利用してはどうか。
- ・1kmの範囲は、少し大きいかもしれない。

《 対象地域の施設 》



3. 全4回の内容



■ 全体の進行

公共施設マネジメントの検討プロセス(左図)に沿って、4回にわたり解決策を考えます。

公共施設のマネジメントを考えるには、地域の現状を知ることが基本です。その上で将来に備えておくことを考えてみると、地域の課題が浮かび上がってきます。

【例：春木市民センター】

施設名称	現状	将来に備えるべきこと	課題
春木市民センター	○ 駅から近い(利便性高い)。 × 賃借料(3,556万円/年)が高い。 × 体育館機能が無い。	・春木駅周辺の整備がされる(踏切・駅前・道路・高架) ・公共施設の維持コスト(50年で41,448千円) ・賃借料の更新(3,556万円/年。50年更新を続けると17.78億円)	・駅周辺整備による環境変化(利便性増)をどのように活かせるか ・公民館機能の必要性 ・体育館機能の必要性 ・図書館機能の充実 ・借家の是非
公民館分館	× 行政のイベント等でしか使わない気がし、公民館分館の位置付けが疑問。		
春木図書館	○ 高齢者中心に利用率が高い。 × 読書に十分なスペースが無い。		
春木サービスセンター	○ 市役所まで行かずに用事がすむ。	・高齢化の進行	

議論や作業をする形式は、春木4校区でグループを作り、校区ごとに課題や取りまとめを行う方法を基本に進めました。議論の内容は大きな白紙に取りまとめ、全体で共有できるよう発表しました。各回のワークショップの内容は、概要版を作成して次の回の冒頭でおさらいしました。

また、ワークショップでの発言や行動については、あくまでワークショップ内での個人的な考えのもと行われており、参加者の肩書等により責任を負うようなことはなく、その旨を確認した上で取り組みました。

■ 第1回の概要

1. ウォーミングアップ

ウォーミングアップでは全4回のワークショップをスムーズに進めるため、まずは参加者どうしで自己紹介を行いました。参加者には地図上に自分の住んでいるところを指差しながら、周辺事情の話を交えつつ、紹介していただきました。また、ワークショップでの進行ルール(互いを尊重、傾聴する。楽しく、真面目に、活発に等)を全員で確認しました。

2. 春木地区の公共施設の現状について

ワークショップの対象となる 31 施設の現状を確認し、自分の住む校区の公共施設の現状で良い点、気になる(悪い)点、将来起こり得ることを問いかけました。参加者からは今見える課題を中心に意見が出されましたが、人口減少を懸念要因とする将来に向けての地域での不安感が表れ、課題解決に向け議論の機運が高まりました。(後段に主な意見をまとめています。)

3. 公共施設マネジメントについて

公共施設マネジメントとは一体何なのか、どのような取組みなのかを、『岸和田市公共施設最適化計画』の内容を中心に市から説明しました。内容は総論部分であり全体的に理解はしつつも、参加者からは個々に対する以下のような意見が出ました。

- ・生徒数が減少するなら小学校の再編も今後の課題。チビッコホームを学校敷地内に建設しているが小学校の空き教室を使えるのでは。
- ・支出抑制だけを考えるのではなく、収入を増やすことも考えては(受益者負担等)。また、投資的経費以外の支出抑制も考えるべき。
- ・施設を単純に減らすのではなく、これからも増える高齢者の利用できる施設等、必要な施設は確保する必要がある(需給の見極め)。
- ・幼稚園の園児は減る一方で保育所は足りない状況。保育所の教育水準が上がる中、幼稚園の存在意義を考えるべき。

4. 地域の拠点施設について

第2圏域全体の中で、地域コミュニティ活動の拠点施設を整備することについて説明しました。現在、この地域での拠点は春木市民センターが担っていますが、この地域全体を見渡した上で再検証することになりました。

【公共施設の現状で良い点、気になる(悪い)点、将来起こり得ることの主な意見】

春木校区	良い点
	—
	気になる(悪い)点
	●春木市民センターの賃貸料が高い。
	●春木地区公民館が老朽化している。
	●春木台場テニスコートは一部の人しか利用しておらず荒れている。定期的に地元で草むしりをしている。
	将来起こり得ること
	●春木地区公民館の移転・新設。場所は春木幼稚園が良い。
	●春木市民センターを春木駅前に移転(図書館・体育館機能を含)。場所は、ダイエー跡の駐車場用地が良い。
	●踏切が拡張され、春木駅が便利になる。また、幹線道路の整備や南海本線の高架の事業化が進む。

城北校区	良い点 ●城北地区公民館、プール、幼稚園、保育所が1か所に集まっていて便利。 気になる（悪い）点 ●雇用促進住宅が半分になり住民が減った。 ●城北地区公民館の耐震対策ができていない。 ●公民館、プール、幼稚園、保育所が同時期に建てられ、当初は良いが老朽化の進行が同時期にやってくる。 将来起こり得ること ●城北地区公民館は耐震未対策で建物がつぶれる。公民館がつぶれると高齢者向け施設が足りない。 ●昭和40年代に建てられた施設（プール、公民館、幼稚園、保育所）を、一体でまとめて再開発する。
大芝校区	良い点 — 気になる（悪い）点 ●校区内に施設が少なく、どれも古い。 ●競輪場の駐車場用地を大芝地区公民館の駐車場として使用しているが、その用地を地権者に返還することになった。公民館として使用するスペースが減り、利用者が減る。 ●春木プールは古く、小学校からも遠い場所にある。必要とは思えない。 将来起こり得ること ●春木グラウンド（運動広場）はアクセスしにくく、少子化が進むので利用者が減り、このあたりが再開発される。 ●校区内には家屋の密集しているところがあり、道路も細く、高齢化が進むことで交通移動が難しくなる。
新条校区	良い点 ●公民館、小学校、幼稚園、（保育所）が1か所に集まっていて便利。 ●公民館は平屋（府営住宅との合築の1階部分）なので、バリアフリーで使いやすい。 気になる（悪い）点 ●新条小学校ではチビッコホームを増築している。児童が減っているのだから、空いた教室を使えばよい。同じ生徒のことなのに協調して施策が行われていないのはおかしい。 ●公民館まで一方通行規制があり車で行きにくく、初めての利用者への誘導が難しい。 ●一部の地域が飛び地になって離れている。 将来起こり得ること ●新条校区の人口は増えているが、城北校区の人口は減っているため、新条小学校と城北小学校の統合が起こる。 ●戸建だと個人所有が多く空き家になればそのままの場合が多いが、公営住宅は空室が出てもすぐに新しい入居者が決まる。校区内には公営住宅が多くあり、人口はあまり減らない。

■ 第2回の概要

前回の議論内容を受け、ワークショップ全体にかかる疑問等を解消するため、第1回の内容を再度全員で議論しました。その後作業に入り、各校区で追加したいことや他校区の気になること、15 圏域の設定の考え方について問いかけ、議論しました。(15 圏域の考え方については4頁に掲載)

春木校区	追加したいこと ●市民センターが近い（住民サービスで直接市役所まで行かなくてすむ） ●春木台場青少年広場は非常によく使われている（一方でテニスコートは利用少ない） ●各地区公民館は、校区で見ると中心にあり、適正な場所にある。 他校区の気になること ●春木市民センターは高齢者を中心に図書館の利用が多いが、本館と比べて十分なスペースが無い。 ●春木市民センターの公民館分館という位置付けには疑問を感じる。
城北校区	追加したいこと ●城北公民館が耐震化未対応となっていることに対して、方向性が不透明、公民館は存続するのか危惧、はっきりして欲しい、建替えてほしい。 ●春木旭町は狭い範囲で、もう空き地がないため新たな開発が望めない。そのため、人口が増加する要因がないので、人口減少の不安がある。 他校区の気になること ●春木市民センターの借地料が高い。 ●春木市民センターに体育館がない。 ●新条校区は大きい府営住宅があり、人口が多く城北は吸収合併されてしまうのではないかと。 ●新条校区の若葉ヶ丘（吉井町府営）が飛び地になっているが、城北校区に再編すれば人口増加が見込まれる。
大芝校区	追加したいこと ●大芝幼稚園は保育所との統合は考えられるが、国の管轄が違うこと（文科省と厚労省）が壁になる。 他校区の気になること ●春木プールは小学校から遠いが、小学校にプールが無く水着で移動しなければならない。小学校に備えるべき。
新条校区	追加したいこと ●新条保育所や東光保育所は民間になった。民営化によるメリットが生じるからそうしたと思うが、他の施設にも応用できるのではないかと考えた。 他校区の気になること ●新条小学校の生徒数、学級数が減っているのに、空き教室が増えているはずなのに、チビッコホームを校舎外に増築しているのは、縦割り行政の弊害だと思う。なんとかうまくならないのか。

■ 第3回の概要

1. 目的の再確認と最終取りまとめについて

ワークショップでのモデルケース案がどれほど市の施策に影響を与えるのか、市での位置付けをどう考えているのかを再確認しました。その上で、最終取りまとめまでの作業プロセスについて議論し、今回の案はあくまでワークショップ内でのものと捉え、直ちに実行に移すものではないことを確認しました。

2. 課題への対応策の検討について

検討プロセス(6頁)の取組みの方向性を考えるにあたっては、ソフト面(機能面)とハード面(施設面)および運営面の整理が必要です。(右表)

前2回で現状の問題点と将来に向け、備えるべきことについて各校区で議論しましたが、そこから見える課題をひとつずつ整理し、それぞれの解決策を考えるという作業が必要になります。

まずは、機能とハコ(施設)の関連性について、考え方とその前提条件を市から説明し、全員で確認しました。

	現状の問題点	将来に向けて備えるべきこと	課題	解決策とその理由
ハード面 ハコ(建物)				
ソフト面 サービス(機能) 利用・活動				
運営面 費用負担				

3. 機能の整理、ハコ(施設)の整理について

施設が持つ機能(研修室等)は必ずしもその施設で確保する必要はなく、機能とハコ(施設)を切り分けて考える必要があります。以下の条件を踏まえ、必要な機能は何かを整理し、ハコ(施設)の置き方を考えます。

将来の施設維持の視点から見た前提条件

- 行政サービスとして必要な機能は、維持もしくは充実させる。
- 人口減少する中、税収減で施設の維持に充てる費用は限られる。
- まとめることができる機能はできる限り集約して、床面積を減らす。

※ 必要な機能を有する施設は、必ずしも公共施設にこだわらない。

前2回で議論した意見をもとに、校区ごとに公民館が持つ機能を ①必要な機能／不要な機能 ②そこでないとできない機能／他施設でもできる機能に仕分けし、さらに必要と判断した機能について、その中で必要度の優先順位を付けました。

【施設（主に公民館）の機能の仕分け】

※番号は優先順位

春木校区	春木地区公民館	ここでないとできない機能		他の施設でもできる機能	
		1.災害避難場所 2.地域（校区）活動の支援 3.集会スペース 4.行政広報・説明会 5.ボランティア・奉仕活動支援の場	6.生涯学習の場 7.作品展示・発表 8.体育（スポーツ） 9.放課後子供の居場所	①.図書読み聞かせスペース ②.放課後子供の居場所 ③.高齢者の居場所 ④.学習スペース	⑤.配架図書の閲覧スペース ⑥.健康増進の場 ⑦.図書貸出サービス ⑧.行政広報・説明会
		理由 ①図書読み聞かせスペースについて、現在その機能がない。 ②放課後子供の居場所について、小学校・チビッコホームが近い。 ③高齢者の居場所について、講座等では来ているが、居場所というような使い方はしていない。			
		その他 ●春木小学校の空き教室に幼稚園機能を入れる。 ●春木幼稚園の空き教室に集会室を入れる。			

城北校区	城北地区公民館	ここでないとできない機能			他の施設でもできる機能
		1.（追加）耐震機能 1. 生涯学習の場 2. 体育（スポーツ） 3. 高齢者の居場所 4. 地域（校区）活動の支援 5. 災害避難場所	6.（追加）体育館の空調 7. 健康増進の場 8. 集会スペース 9. ボランティア・奉仕活動支援の場	10. 放課後子供の居場所 11. 配架図書の閲覧スペース 12. 作品展示・発表 13. 学習スペース	①.行政広報・説明会 ②.図書読み聞かせスペース ③.図書貸出サービス
		理由 1.（追加）耐震機能は大前提の機能である。 9.ボランティア・奉仕活動支援の場は町会館でも行うが、町民以外有料だったり、校区としての活動があるから必要。 10. 放課後子どもの居場所について、学校は早く帰るよう促すので居場所を確保しておく必要がある。			
		その他 ●行政広報・説明会は城北小学校でも可能。 ●図書読み聞かせスペースは学校の空いている教室や図書室でも可能。			

大芝校区	大芝地区公民館	ここでないといけない機能		他の施設でもできる機能	不要の可能性がある機能
		1. 地域（校区）活動の支援 2. 行政広報・説明会 3. 集会スペース 4. ボランティア・奉仕活動支援の場 5. 生涯学習の場	6. 健康増進の場 7. 作品展示・発表 8. 学習スペース 9. 災害避難場所	①.体育（スポーツ） ②.高齢者の居場所 ③.放課後子供の居場所	×配架図書の閲覧スペース ×図書読み聞かせスペース ×図書貸出サービス
		理由 ②の高齢者の居場所について、市民センターのような大きな施設が持てばよい。 図書機能について、春木市民センター内の図書館をもっと充実させ、そこに全機能を備えればよい。そうすれば地区公民館としては不要。 ③放課後子どもの居場所について、地域の空き家をうまく活用できればよい。			
		その他 特になし			

新条校区	新条地区公民館	ここでないといけない機能		他の施設でもできる機能	不要の可能性がある機能
		1. 地域（校区）活動の支援 2. ボランティア・奉仕活動支援の場 3. 災害避難場所 4. 生涯学習の場	5. 作品展示・発表 6. 健康増進の場 7. 集会スペース 8.（追加）創作・陶芸の場	①.図書貸出サービス ②.放課後子どもの居場所 ③.学習スペース ④.図書読み聞かせスペース ⑤.配架図書の閲覧スペース	×体育（スポーツ） ×高齢者の居場所 ×行政広報・説明会
		理由 8.（追加）創作・陶芸の場について、新条地区公民館は陶芸釜があるが、他の公民館には無いため他の校区の人でも利用していると思うので必要。 体育（スポーツ）について、昔は体育利用が複数あったが、徐々に無くなり今ではほとんど無いため不要では。			
		その他 ●新条小学校に学習スペース機能を入れる。 ●新条小学校に放課後子どもの居場所機能を入れる。			

■ 第4回の概要

機能仕分けの結果を踏まえ、施設配置案の検討を行いました。作業としては、本来は市から提案したパターンを順に検討していくのが望ましいところですが、時間の制約上により、参加者には具体的検討パターンをひとつ選んでもらい、それに絞って作業を行いました。

1. 機能の整理から施設(ハコ)を考える

モデルケースの検討では、各公民館の機能について、機能面の整理から必要な施設(ハコ)を用意していくという流れで議論しました。施設の維持にあてる費用が限られる中で、今後も施設を維持するためには総量を減らさなければなりません、行政サービスで必要な機能は減らしてはなりません。まとめることができる機能はできる限り集約させ、同時に総量削減を実現させる可能性を探りました。

公民館で、現在、担っている機能 (○/4) は、そう思ったグループ数/4グループ数	
公民館でないとできない機能	他施設でもできる機能
●災害避難場所 (4/4) ●集会スペース (4/4) ●地域(校区)活動の支援 (4/4) ●ボランティア・奉仕活動支援の場 (4/4) ●生涯学習の場 (4/4) ●作品展示・発表 (4/4) ●健康増進の場 (3/4)	●図書貸出サービス (4/4) ●図書読み聞かせサービス (4/4) ●配架図書の閲覧スペース (3/4) ●高齢者の居場所 (3/4) ●放課後子供の居場所 (3/4)
●行政広報・説明会 (2/4) ●体育(スポーツ) (2/4) ●学習スペース (2/4)	

* 作業の手順

以下の順に機能整理を行う。

- 必要な機能/不要な機能
- そこでないとできない機能/他施設でもできる機能

また、春木市民センターについて、将来的な機能の必要性について大まかな方向性を決めました。

	公民館分館	春木図書館	春木サービスセンター
現施設の機能	●行政広報・説明会 ●災害避難所 ●生涯学習の場 ●駐車場 ●健康増進の場 ●集会スペース ●ボランティア・奉仕活動支援の場 ●作品展示・発表	●配架図書の閲覧スペース ●図書読み聞かせスペース ●図書貸出サービス ●自習スペース	●交付窓口サービス ●行政広報
機能の必要性	本当に必要な？ 地区住民には、各地区公民館があるので、公民館としての機能が必要なのかは疑問がある。	拡充希望 地区公民館の図書は脆弱。春木図書館も、本館のように図書館を充実して欲しい。	今迄どおり

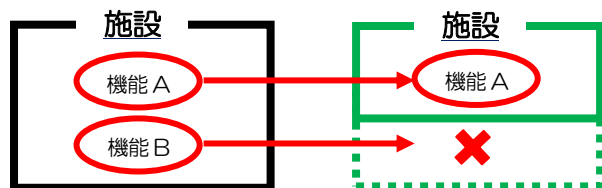
《 機能についての主な意見 》

地域活動支援としては、市民協の拠点として作業・会議するのに必要。

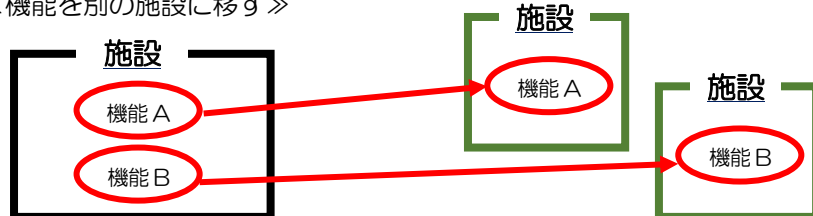
- ・行政からの周知は地域で行うのが望ましい。小学校の部屋を貸してもらえたら、そこでもできるが。
- ・図書関連は、市民センターの図書館を充実させれば充分。学校の図書館も使えるか。
- ・放課後子供の居場所は、地域に増えている空家を活用したらどうか。

2. 機能整理と施設配置の整理パターン例

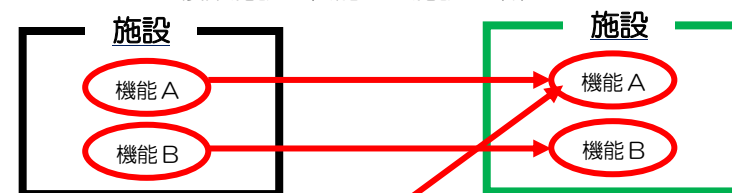
《不要な機能を無くし減築》



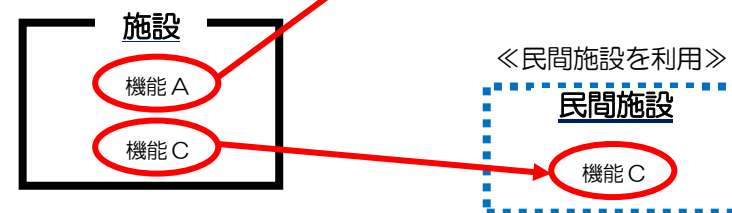
《機能を別の施設に移す》



《複数施設の機能を1施設に集約》



《民間施設を利用》



3. 施設配置案の検討

市から施設配置パターン案（4施設 → 4施設、3施設、2施設、1施設）を提示し、機能の整理を踏まえつつ、どの施設にその機能を持たせられるかをシミュレーションしながら、それぞれのパターンを参加者で具体的に検討しました。以下はパターンごとの施設配置を参加者が想定したものです。

4施設⇒4施設案

春木地区公民館 ⇒春木幼稚園敷地に建替え
大芝地区公民館 ⇒現地建替え
城北地区公民館 ⇒古い施設（公・幼・保・プール）まとめて整備（一体化）
新条地区公民館 ⇒そのまま（府営住宅との合築で賃借料はかかるが、まだ新しい）

4施設⇒3施設案

春木地区公民館 ⇒春木幼稚園敷地に建替え
大芝地区公民館 ⇒現地建替え
城北地区公民館 } 新条+城北（城北で建替え）←北中校区の中心
新条地区公民館 } 古い施設（公・幼・保・プール）をまとめて整備

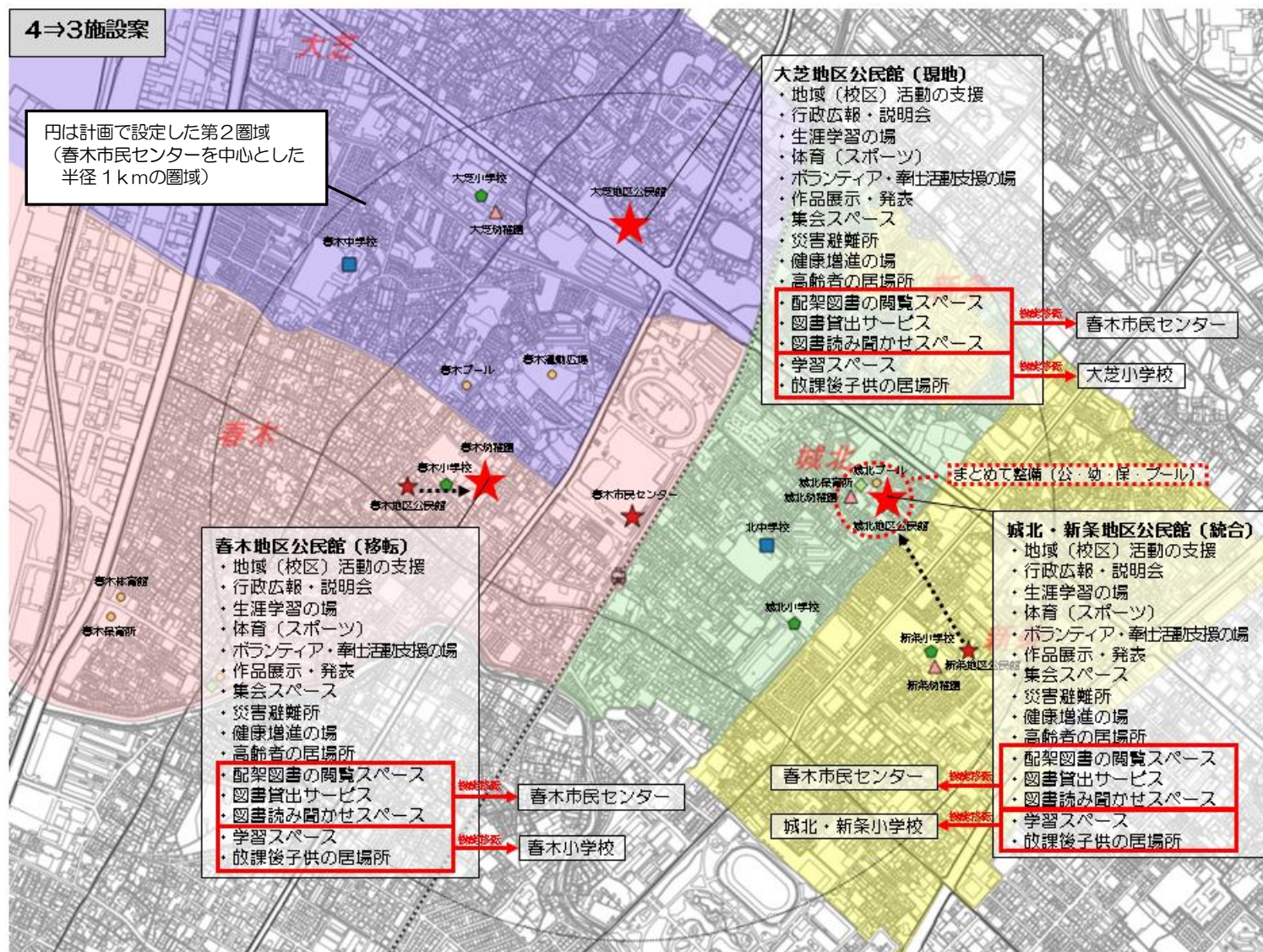
4施設⇒2施設案

春木地区公民館 } 春木+大芝（春木運動広場で建替え）
大芝地区公民館 }
城北地区公民館 } 新条+城北（城北で建替え）←北中校区の中心
新条地区公民館 } 古い施設（公・幼・保・プール）をまとめて整備

4施設⇒1施設案

春木地区公民館 } 4公民館を春木駅前市有地（現コインパーキング）で建替え
大芝地区公民館 } （敷地が狭い場合は、春木運動広場で建替え）
城北地区公民館 }
新条地区公民館 }

上記案の中から、市が(4施設 → 3施設案)を採用し、機能を備える施設(ハコ)を確定しました。市が用意した施設(ハコ)に、第3回で整理したそれぞれの施設で備えるべき機能を踏まえ、参加者全員で付せんを使って施設に割り振る作業を行いました。参加者は将来的展望に危機感を持っていることから、真剣に取り組む、現実的な想定のもとで議論ができました。



*** 作業中に出された色々な意見**

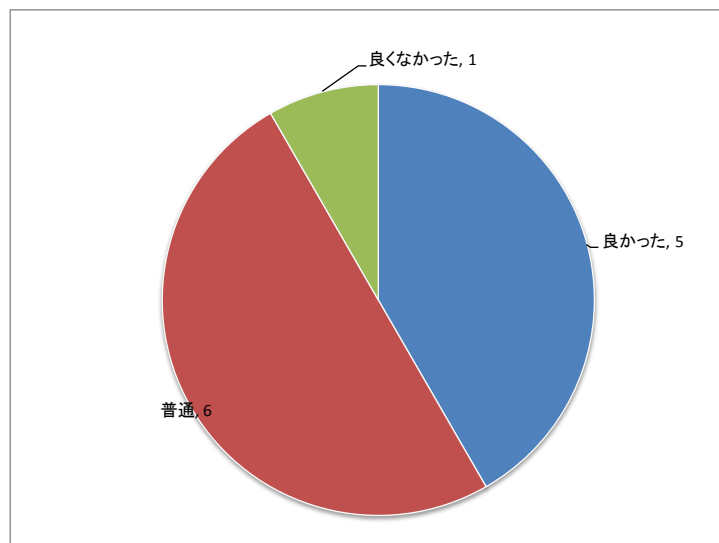
- ・学校の体育館を使えたら良いのに。
- ・機能を残すというのは分かるが、圏域の半径1*₀設定であるように、距離が遠ければ結局利用できなくなるので、距離を考えることが非常に重要。
- ・やっぱりお金のことを関係なしに考えたら、4校区ごとに1つつ公民館が欲しい。
- ・公民館は部屋を借りても無料で、エアコン使用料のみ負担したりするが、利用料の負担など受益者負担も考えていく必要がある。
- ・春木市民センターは陶芸教室とかやめて、センター機能と図書館だけで良い。
- ・大芝地区公民館は高齢になると行きやすいと感じる。春木は遠い。
- ・地区ごとに公民館が欲しいから、受益者負担を導入すれば良い。
- ・10年後などの将来は公民館をどこかに移さなければならないと思うが、現状は今のままがよい。
- ・公民館に来てもらおうとすると、設備投資も必要になる。
- ・公民館はボランティアでしか貸せないという。営利目的はだめと言われるので別の場所を探すしかない。
- ・図書機能は市民センターへ。
- ・校区内でしか子どもは遊んではいけないというルールになっているので、新条公民館・城北公民館の統合は子どもが利用しにくくなるのではないか。
- ・校長先生で学校の運営が違う。
- ・学校運営協議会でもう少し柔軟にできないか言ってみては？
- ・分館で活動している人は、各地区公民館で利用してもらったらい。
- ・春木市民センターは賃貸料が高いが、建てる費用はかかっている。
- ・中学校区で今度考えてみたらいいと思う。
- ・現在と将来の人口密度や推移の分かるデータがあればよかった。

4. まとめ

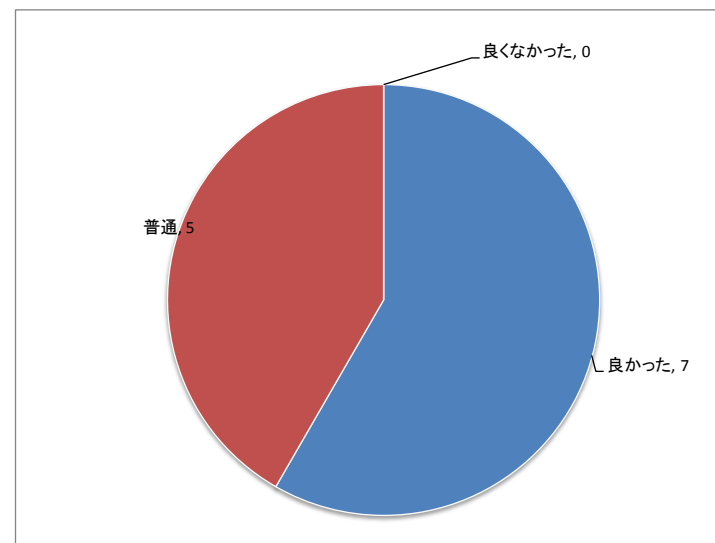
■ 参加者の受け止め方

ワークショップの運営等についてアンケートを実施しました。

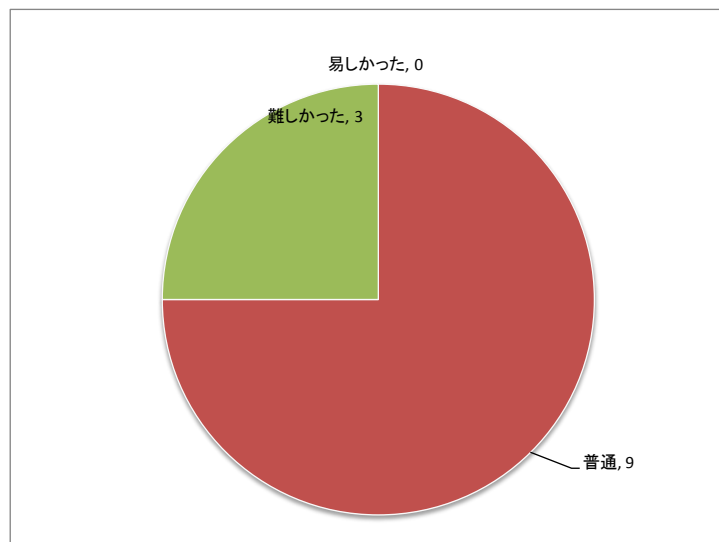
Q. 市からの情報提供の内容について(n=12、人)



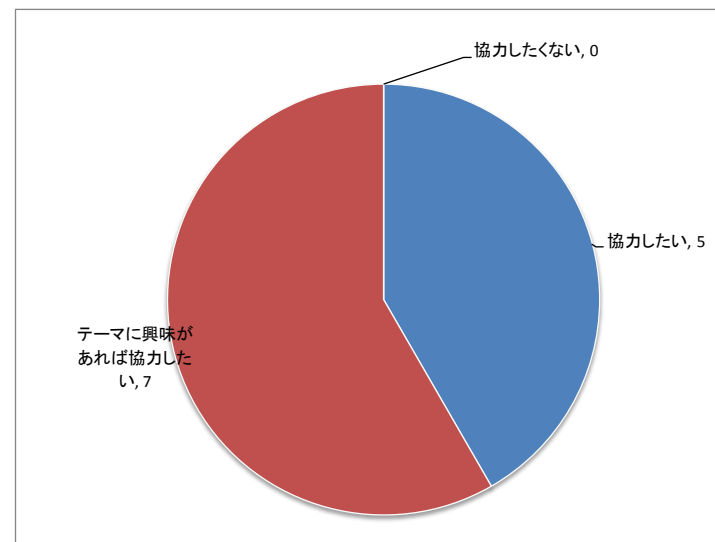
Q. ワークショップの進め方について(n=12、人)



Q. 内容の難易度について(n=12、人)



Q. 今後の取組みに対する協力について(n=12、人)



Q. 全4回を通じての内容や運営に関する主な意見、アイデア等(自由意見)

- 良い勉強となったが、市の状況(財政事情等)と市民ニーズの兼ね合いは難しい。
- 人口減少に伴い、減らすだけでなくまとめて充実させる方向で進めていく方法について勉強になった。
- 人口減少、高齢化、市の財政を考慮すれば自ずと縮小となり、斬新な考えが浮かばない。(自然と市の考える方向になってしまう。)
- 非常に良かった。春木地区のみでなく岸和田全体で行ってほしい。
- 様々な問題に重なる事情が多く、それに気付かされた。向こう10年の財政事情を提示されると問題点も具体的に考えられるのでは。
- 歳出に占める割合が多く将来的にも厳しいのがよく分かったので、公共施設が今後どうあるべきかよく考えたい。
- 市の歳出を減らす大きなビジョンの説明をしてから今回の話につなげないと、腑に落ちない感がある。

ワークショップの運営については概ね好意的な受け止められ方と判断できます。一方で難易度については、「難しかった」と感じている参加者が3名おり、主な理由としては「全体的な把握ができない」「結論が出ない」というものです。また、今後、公共施設に関する取組みについて議論する機会があれば協力していただけるかを問うたところ、全員が(テーマに興味があれば)協力したいという意見でした。

また、自由意見では参加者それぞれで感じたこと、得たことは異なりますが、このワークショップを通じて公共施設マネジメントの取組みに触れ、引き続き考えていくきっかけになったと見受けられました。

■ ワークショップを通して市が学んだこと

ワークショップの取組みの中で、以下のような気付きがありました。

- **各校区で施設についての将来的な展望を聞くと、気になる点(悪い点)の意見がほとんどであったこと。**
人口減少が進む、施設の老朽化が一段と進む等、強く負のイメージを抱いているように感じました。将来に向けて危機感が大きいと感じました。
- **総量削減という総論部分は概ね理解されていること。**
市の財政状況と人口推計を見るかぎり、一定の総量削減は必要だと受け止められていました。
- **公共施設の適正配置の検討だけで進めるわけにはいかないこと。**
公共施設の適正配置を検討する必要性は理解できるが、他の行政改革を進めず適正配置だけを行うというのは、賛同を得られないと感じました。
- **地区公民館は各校区に存在すべきものだとの考えがあること。**
これまでの公民館が整備された経緯もあり、地域として公民館は必要だという思いを強く感じました。

➤ **公民館に必要な機能の仕分けについては、校区ごとに大きくは変わらないこと。**

施設ごとで比較すれば仕分け結果の差はあまりなく、重複機能としてまとめるイメージ作りができると感じました。

➤ **ワークショップ後も検討を進めていくことについて、参加者と共有認識を持てたこと。**

ワークショップとしての検討は終わりましたが、地域での適正配置の検討はこれからであり、次の段階で協議する時にはスムーズに話し合いができる土壌が作れたと考えています。

■ **運営上の反省点**

ワークショップ運営にあたっての反省点は、公共施設マネジメントの取組みがなぜ必要なのかの説明を、導入部分であまり時間を取らず作業に入ったことです。参加者の意見にもありましたが、この取組みは市全体の行政改革の中で行うひとつの事項であることを確認し、市全体の状況(財政状況や公共施設の維持コスト)を情報提供して、必要性の理解にもっと努めるべきでした。結果として、ワークショップを進めていく中で修正を行い、理解促進に充てる時間を増やしましたが、このワークショップに限らず、総論部分(一般的事項)の理解が得られないままに進めることの問題が浮かび上がったところです。

■ **今後に向けて**

今回のワークショップは春木地域(第2圏域)を対象に行いましたが、現在この地域では、春木駅周辺のまちづくりについて地域の住民を交え検討が進められており、これを機会に具体的協議を行う地域も出てくることが考えられます。今回検討した施設配置案はあくまでワークショップ内でのもので、最終決定モデル案ではありませんが、市が参加者とともに考え、検討したことが非常に有益なものでした。今回のワークショップから得たことを活かしつつ、まちづくり全体のビジョンの中で、市と地域双方にとって最良となる「公共施設のあり方」を考えてまいります。

春木駅周辺地区（4校区）の公共施設について考えるワークショップ 概要

■ 目 的

本市の公共施設の現状と取組みについて、ワークショップの作業を通し認識を共有することを目的としています。

また、公共施設の再配置というと、施設の存廃で住民側と行政側でそれぞれの目標が一見対立するようには思えますが、本来の目的は集会や生涯学習の場を引き続き利用したいということであったり、コストの削減であったりするので、機能とハコ（施設）を分けて再構築することで、お互いの本来の目的を達成できる策が見えてくるのではないかと考えました。そのような利害調整のポイント等を把握することを目的としています。

■ 開催日時

	日 時	テーマ・内容	場 所
第1回	平成29年 1月12日（木） 19：00～	「問題意識を共有しよう」 ・各校区の現状と将来について意見交換 ・市の公共施設の現状と課題について認識の共有	岸和田市立 春木地区公民館
第2回	平成29年 1月31日（火） 19：00～	「課題を明確にしよう」 ・前回の意見を踏まえ各校区の課題の明確化 ・15圏域の考え方について意見交換	
第3回	平成29年 2月7日（火） 19：00～	「課題への対応策を考えよう」 ・現在の施設の機能について確認 ・必要な機能と他施設でも可能な機能の仕分け	
第4回	平成29年 2月21日（火） 19：00～	「地域の将来像を考えよう」 ・前回の機能の仕分けを受けて、公民館を事例にどのような配置にするか意見交換	

■ 対象圏域

◎第2圏域（春木駅周辺地区）

■ 参 加 者

◎春木・大芝・城北・新条の4校区長と校区長の推薦者 計 14 名

◎ファシリテーター 1名

※今回は、校区の代表ではなく、あくまで個人の意見として自由にご発言いただきました。

■ 第1回 主な意見

【校区内の公共施設の現状で良い点・気になる（悪い）点・将来起こり得ることについて意見交換】

春木校区	良い点
	—
	気になる（悪い）点
	●春木市民センターの賃貸料が高い。 ●春木地区公民館が老朽化している。 ●春木台場テニスコートは一部の人しか利用しておらず荒れている。定期的に地元で草むしりをしている。
	将来起こり得ること
城北校区	●春木地区公民館の移転・新設。場所は春木幼稚園が良い。 ●春木市民センターを春木駅前に移転（図書館・体育館機能を含）。場所は、ダイエー跡の駐車場用地が良い。 ●踏切が拡張され、春木駅が便利になる。また、幹線道路の整備や南海本線の高架の事業化が進む。
	良い点
	●城北地区公民館、プール、幼稚園、保育所が1か所に集まっていて便利。
	気になる（悪い）点
	●雇用促進住宅が半分になり住民が減った。 ●城北地区公民館の耐震対策ができていない。 ●公民館、プール、幼稚園、保育所が同時期に建てられ、当初は良いが老朽化の進行が同時期にやってくる。
大芝校区	将来起こり得ること
	●城北地区公民館は耐震対策ができてきないので建物がつぶれる。公民館がつぶれると高齢者向け施設が足りない。 ●昭和40年代に建てられた施設（プール、公民館、幼稚園、保育所）を、一体でまとめて再開発する。 ●人口減少のため、校区の再開発が進むかもしれない。
	良い点
	—
	気になる（悪い）点
	●校区内に施設が少なく、どれも古い。 ●競輪場の駐車場用地を大芝地区公民館の駐車場として使用しているが、その用地を地権者に返還することになった。公民館として使用するスペースが減り、利用者が減る。 ●春木プールは古く、小学校からも遠い場所にある。必要とは思えない。
新条校区	将来起こり得ること
	●春木グラウンド（運動広場）は、アクセスしにくく、少子化が進むので利用者が減り、このあたりが再開発される。 ●大芝幼稚園の園児が少なくなる。 ●校区内には家屋の密集しているところがあり、道路も細く、高齢化が進むことで交通移動が難しくなる。
	良い点
	●新条地区公民館は新条校区4町が集まりやすい場所にある。 ●公民館、小学校、幼稚園、（保育所）が1か所に集まっていて便利。 ●公民館は平屋（府営住宅との合築の1階部分）なので、バリアフリーで使いやすい。
	気になる（悪い）点
	●新条小学校ではチビッコホームを増築している。児童が減っているのだから、空いた教室を使えばよい。同じ生徒のことにのに協調して施策が行われていないのはおかしい。 ●公民館まで一方通行規制があり車で行きにくく、初めての利用者への誘導が難しい。 ●一部の地域が飛び地になって離れている。
新条校区	将来起こり得ること
	●新条小学校の老朽化が進む。 ●新条校区の人口は増えているが、城北校区の人口は減っているため、新条小学校と城北小学校の統合が起こる。 ●戸建だと個人所有が多く空き家になればそのままの場合が多いが、公営住宅は空室が出てもすぐに新しい入居者が決まる。校区内には公営住宅が多くあり、人口はあまり減らない。

■ 第2回 主な意見

【第1回の意見を受けて追加したいこと・他校区の気になること】

春木校区	追加したいこと
	●市民センターが近い（住民サービスで直接市役所まで行かなくてすむ） ●春木台場青少年広場は非常によく使われている（一方でテニスコートは利用少ない） ●各地区公民館は、校区で見ると中心にあり、適正な場所にある。（公民館の場所が変わると、校区の端に住む利用者が使いづらくなる。公民館の利用者が多い状況で、公民館を減らす前提だけで考えるのは×）
城北校区	他校区の気になること
	●高齢者を中心に図書館の利用が多いが、本館と比べて十分なスペースが無い。（複合施設の弊害か？）かといって公民館の図書は貧弱。 ●春木市民センターの公民館分館という位置付けには疑問を感じる。
大芝校区	追加したいこと
	●城北公民館が耐震化未対応となっていることに対して、方向性が不透明、公民館は存続するのか危惧、はっきりして欲しい、建替えてほしい。 ●春木旭町は狭い範囲で、もう空き地がないため新たな開発が望めない。そのため、人口が増加する要因がないので、人口減少の不安がある。
新条校区	他校区の気になること
	●春木市民センターの借地料が高い。 ●春木市民センターに体育館がない。 ●新条は大きい府営住宅があり、人口が多く城北は吸収合併されてしまうのではないか。 ●新条校区の若葉ヶ丘（吉井町府営）が飛び地になっているが、城北校区に再編すれば、城北の人口増加が見込まれる。
大芝校区	追加したいこと
	●大芝公民館は祝祭日が休館になる。 ●大芝公民館は健康増進に役立っており、館が無くなると医療費が増える。講座、教室の利用者が減少している。民間施設で魅力的なものが有る影響か。 ●大芝幼稚園は保育所との統合は考えられるが、国の管轄が違うこと（文科省と厚労省）が壁になる。
新条校区	他校区の気になること
	●春木プールは小学校から遠いが、小学校にプールが無く水着で遠路移動しなければならない。各小学校に備えるべき。 ●春木運動広場は土の質が悪い。
新条校区	追加したいこと
	●新条保育所や東光保育所は民間になったが、城北保育所は市立のまま。どのようにして民営化を決めたのか、基準等を知りたい。理由は、民営化によるメリットが生じるからそう思うが、他の施設にも応用できるのではないかと考えたから。 ●文化会館について、何に利用しているのかよく分からない。
新条校区	他校区の気になること
	●新条地区公民館の維持費、特に賃貸料が他より高い。 ●施設カルテを見ると、やはり新条小学校の生徒数、学級数が減っているのに、空き教室が増えているはずなのに、チビッコホームを校舎外に増築しているのは、やはり腑に落ちない。縦割り行政の弊害だと思う。なんとかうまくならないのか。

【15 圏域の説明を受けて全体での意見交換】

- 15 圏域について、公共施設について考えるとき、小学校区では範囲は小さく、中学校区ではやや大きいので、1 km半径の範囲で考えていくという考え方には一定の理解は出来る。
- 15 圏域については公共施設マネジメントの考え方としては理解できるが、春木4校区に各公民館があり、現状でみんな使い勝手が良いのに、それが変わってしまうことを考えると急に言われてもすぐには受け入れ難い。
- 圏域の中でも、施設のタイプに応じて集約すべきかしないのかという選別を行うべきではないか。
- 1 km半径の範囲は、ちょっと大きいかもしれないと思う。

■ 第3回 主な意見

【施設（主に公民館）の機能の仕分け】

※番号は優先順位

		ここでないとできない機能		他の施設でもできる機能	
春木校区	春木地区公民館	1.災害避難場所 2.地域（校区）活動の支援 3.集会スペース 4.行政広報・説明会 5.ボランティア・奉仕活動支援の場	6.生涯学習の場 7.作品展示・発表 8.体育（スポーツ） 9.放課後子供の居場所	①.図書読み聞かせスペース ②.放課後子供の居場所 ③.高齢者の居場所 ④.学習スペース	⑤.配架図書の閲覧スペース ⑥.健康増進の場 ⑦.図書貸出サービス ⑧.行政広報・説明会
	理由	①図書読み聞かせスペースについて、現在その機能がない。 ②放課後子供の居場所について、小学校・チビッコホームが近い。 ③高齢者の居場所について、講座等では来ているが、居場所というような使い方はしていない。			
	その他	●春木小学校の空き教室に幼稚園機能を入れる。 ●春木幼稚園の空き教室に集会室を入れる。			
城北校区	城北地区公民館	1.（追加）耐震機能 1. 生涯学習の場 2. 体育（スポーツ） 3. 高齢者の居場所 4. 地域（校区）活動の支援 5. 災害避難場所	6.（追加）体育館の空調 7. 健康増進の場 8. 集会スペース 9. ボランティア・奉仕活動支援の場	10. 放課後子供の居場所 11. 配架図書の閲覧スペース 12. 作品展示・発表 13. 学習スペース	①. 行政広報・説明会 ②. 図書読み聞かせスペース ③. 図書貸出サービス
	理由	1.（追加）耐震機能は大前提の機能である。 9.ボランティア・奉仕活動支援の場は町会館でも行うが、町民以外有料だったり、校区としての活動があるから必要。 10. 放課後子どもの居場所について、学校は早く帰るよう促すので居場所を確保しておく必要がある。			
	その他	●行政広報・説明会は城北小学校でも可能。 ●図書読み聞かせスペースは学校の空いている教室や図書室でも可能。			
大芝校区	大芝地区公民館	1. 地域（校区）活動の支援 2. 行政広報・説明会 3. 集会スペース 4. ボランティア・奉仕活動支援の場 5. 生涯学習の場	6. 健康増進の場 7. 作品展示・発表 8. 学習スペース 9. 災害避難場所	①.体育（スポーツ） ②.高齢者の居場所 ③.放課後子供の居場所	×配架図書の閲覧スペース ×図書読み聞かせスペース ×図書貸出サービス
	理由	②の高齢者の居場所について、市民センターのような大きな施設が持てばよい。 図書機能について、春木市民センター内の図書館をもっと充実させ、そこに全機能を備えればよい。そうすれば地区公民館としては不要。 ③放課後子どもの居場所について、地域の空き家をうまく活用できればよい。			
	その他	特になし			
新条校区	新条地区公民館	1. 地域（校区）活動の支援 2. ボランティア・奉仕活動支援の場 3. 災害避難場所 4. 生涯学習の場	5. 作品展示・発表 6. 健康増進の場 7. 集会スペース 8.（追加）創作・陶芸の場	①. 図書貸出サービス ②.放課後子どもの居場所 ③.学習スペース ④. 図書読み聞かせスペース ⑤. 配架図書の閲覧スペース	×体育（スポーツ） ×高齢者の居場所 ×行政広報・説明会
	理由	8.（追加）創作・陶芸の場について、新条地区公民館は陶芸釜があるが、他の公民館には無いため他の校区の人も利用していると思うので必要。 体育（スポーツ）について、昔は体育利用が複数あったが、徐々に無くなり今ではほとんど無いため不要では。			
	その他	●新条小学校に学習スペース機能を入れる。 ●新条小学校に放課後子どもの居場所機能を入れる。			

■ 第4回 主な意見

【公民館の施設を再配置シミュレーション】

お題① 4地区公民館を4施設のままで再配置

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 春木地区公民館 | ➡ 春木幼稚園敷地に移転し建替え |
| 大芝地区公民館 | ➡ 現地建替え |
| 城北地区公民館 | ➡ 古い施設（公民館・幼稚園・保育所・プール）まとめて整備し一体化 |
| 新条地区公民館 | ➡ そのまま（府営住宅との合築で賃借料はかかるが、まだ新しい） |

お題② 4地区公民館を3施設にした場合

- | | |
|--------------------|--|
| 春木地区公民館 | ➡ 春木幼稚園敷地に移転し建替え |
| 大芝地区公民館 | ➡ 現地建替え |
| 城北地区公民館
新条地区公民館 | ➡ 新条+城北（城北で建替え）←北中学校区の中心。
さらに、古い施設（公民館・幼稚園・保育所・プール）をまとめて整備する。 |

お題③ 4地区公民館を2施設にした場合

- | | |
|--------------------|--|
| 春木地区公民館
大芝地区公民館 | ➡ 春木+大芝（春木運動広場で建替え） |
| 城北地区公民館
新条地区公民館 | ➡ 新条+城北（城北で建替え）←北中学校区の中心。
さらに、古い施設（公民館・幼稚園・保育所・プール）をまとめて整備する。 |

お題④ 4地区公民館を1施設にした場合

- | | |
|--|---|
| 春木地区公民館
大芝地区公民館
城北地区公民館
新条地区公民館 | ➡ 4公民館を春木駅前市有地（現コインパーキング）で建替え。
（敷地が狭い場合は、春木運動広場で建替え） |
|--|---|

【お題② 4地区公民館を3施設にしたパターンで機能を再配置シミュレーション】

春木地区公民館 ➡ 春木幼稚園敷地に移転し建替え

新・春木地区公民館（幼稚園敷地移転）案

機能

- ・地域（校区）活動の支援
- ・行政広報・説明会
- ・生涯学習の場
- ・体育（スポーツ）
- ・作品展示・発表
- ・集会スペース
- ・災害避難所
- ・ボランティア・
奉仕活動支援の場
- ・健康増進の場
- ・高齢者の居場所
- ・配架図書の閲覧スペース
- ・図書貸出サービス
- ・図書読み聞かせスペース
- ・学習スペース
- ・放課後子供の居場所

春木市民センターへ
機能移転

春木小学校へ
機能移転

大芝地区公民館 ➡ 現地建替え

新・大芝地区公民館（現地建替え）案

機能

- ・地域（校区）活動の支援
- ・行政広報・説明会
- ・生涯学習の場
- ・体育（スポーツ）
- ・作品展示・発表
- ・集会スペース
- ・災害避難所
- ・ボランティア・
奉仕活動支援の場
- ・健康増進の場
- ・高齢者の居場所
- ・配架図書の閲覧スペース
- ・図書貸出サービス
- ・図書読み聞かせスペース
- ・学習スペース
- ・放課後子供の居場所

春木市民センターへ
機能移転

大芝小学校へ
機能移転

城北地区公民館
新条地区公民館

➡ 新条+城北（城北で建替え）←北中学校区の中心。
さらに、古い施設（公民館・幼稚園・保育所・プール）をまとめて整備する。

新・城北新条地区公民館（統合）案

機能

- ・地域（校区）活動の支援
- ・行政広報・説明会
- ・生涯学習の場
- ・体育（スポーツ）
- ・作品展示・発表
- ・集会スペース
- ・災害避難所
- ・ボランティア・
奉仕活動支援の場
- ・健康増進の場
- ・高齢者の居場所
- ・配架図書の閲覧スペース
- ・図書貸出サービス
- ・図書読み聞かせスペース
- ・学習スペース
- ・放課後子供の居場所

周辺の老朽化した幼稚園・
保育所・プールをまとめて
整備し一体化する。

春木市民センターへ
機能移転

新条・城北小学校へ
機能移転

【第4回 作業中に出されたその他意見】

- 学校の体育館を使えたら良いのに。
- 機能を残すというのは分かるが、圏域の半径 1km 設定であるように、距離が遠ければ結局利用できなくなるので、距離を考えることが非常に重要。
- やっぱりお金のことを関係なしに考えたら、4校区ごとに1つずつ公民館が欲しい。
- 公民館は部屋を借りても無料で、エアコン使用料のみ負担したりするが、利用料の負担など受益者負担も考えていく必要がある。
- 春木市民センターは陶芸教室とかやめて、センター機能と図書館だけで良い。
- 大芝地区公民館は高齢になると行きやすいと感じる。春木は遠い。
- 地区ごとに公民館が欲しいから、受益者負担を導入すれば良い。
- 10年後などの将来は公民館をどこかに移さなければならないと思うが、現状は今のままがよい。
- 公民館に来てもらおうとすると、設備投資も必要になる。
- 公民館はボランティアでしか貸せないという。営利目的はだめと言われるので別の場所を探すしかない。
- 図書機能は市民センターへ。
- 校区内でしか子どもは遊んではいけないというルールになっているので、新条公民館・城北公民館の統合は子どもが利用しにくくなるのではないか。
- 校長先生で学校の運営が違う。
- 学校運営協議会でもう少し柔軟にできないか言ってみては？
- 分館で活動している人は、各地区公民館で利用してもらったらい。
- 春木市民センターは賃貸料が高いが、建てる費用はかかっていない。
- 中学校区で今度考えてみたらいいと思う。
- 現在と将来の人口密度や推移の分かるデータがあればよかった。

まとめ

■アンケートより

ワークショップの運営については概ね好意的な受け止められ方と判断できます。一方で難易度については、「難しかった」と感じている参加者が3名おり、主な理由としては「全体的な把握ができない」「結論が出ない」というものです。また、今後、公共施設に関する取組みについて議論する機会があれば協力していただけるかを問うたところ、全員が（テーマに興味があれば）協力したいという意見でした。

また、自由意見では参加者それぞれで感じたこと、得たことは異なりますが、このワークショップを通じて公共施設マネジメントの取組みに触れ、引き続き考えていくきっかけになったと見受けられました。

■今後に向けて

今回のワークショップは春木地域（第2圏域）を対象に行いましたが、現在この地域では、春木駅周辺のまちづくりについて地域の住民を交え検討が進められており、これを機会に具体的協議を行う地域も出てくるのが考えられます。今回検討した施設配置案はあくまでワークショップ内でのもので、最終決定モデル案ではありませんが、市が参加者とともに考え、検討したことが非常に有益なものでした。今回のワークショップから得たことを活かしつつ、まちづくり全体のビジョンの中で、市と地域双方にとって最良となる「公共施設のあり方」を考えてまいります。